

CONTENTS

- 住之江区 地域をあげて8050と向き合う 1
- 都島区 どんどん歩こう！ 2
- 都島区おでかけ「スタンプラリースタート」 3
- 西成区 こどもたちの思いが、食事サービスの再開を後押し 4
- 中央区 スマホを勉強し、ボランティア講師になろう！ 5
- 市社協 3年後の姿は？何ができる？「第2期推進計画」から考える私たちの活動 6
- 7
- 8

大阪の 社会福祉

2021.5
792

The social welfare
in OSAKA



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



会場のさざんか会館(住之江区)には、日曜の朝から地域住民ら約60人が集まった

住之江区 地域をあげて はちまるごーまる 8050と向き合う

「加賀屋2021フォーラム」が3月14日に開催された。テーマは「8050問題への注目」。8050問題とは、80代の親と50代のひきこもりの子が世帯単位で抱える課題を指す。この企画の背景には悲しい事故があった。(2面へ続く)

HB

私の住んでいる平野区で、利用者減による交通の不便を解消するために、大阪メトロが新しいバスの仕組みを打ち出した。オンデマンドバスというのだが、配布されたチラシのどこを読んでも、その目的がはっきりしない▼利用者の大半は高齢者や障がい者である。それなのにオンデマンドというわかりにくい名前。時間を予約できるといっても、その予約はスマートフォンアプリOsakamasで書いてあるので、さらにわかりにくい▼多くの障がい者や高齢者は現在割引や無料のサービスを使っているのだが、新しいバスは高齢者割引を使えず、210円。そこで私なりの理解だが、目的は値上げなのだと思った▼自分の都合で時間を決めることができるというが、予約をするという作業が増える。新しい試みは歓迎だが、バスができて以来馴染んだバス停でバスを待つという仕組みが、高齢者にとっては使いやすい仕組みなのだ▼そういえば府北部の能勢町にあった同名のオンデマンドバスは、すでに廃止になった。私にとっては、今のルートでバスの本数を増やしてくれることが何よりだと思うが。

(石)

昨半夏に住之江区加賀屋地域内で火災事故が発生。出火元と見られる世帯の高齢の母は外出中で無事だったが、ひきこもり状態の息子が命を落とした。「こうなる前に何かできなかったのだろうか」「地域としてこの問題と向き合いたい」…地域の強い思いを受けて、区社協も一緒に企画を練り、今回の地域主体のフォーラムが実現した。

表面化しづらく、孤立しやすい

基調講演として、梅花女子大学の綾部貴子准教授が8050の問題を解説した。「50」の子の背景として、いじめや不登校、仕事になじめずに退職した過去の体験や、社会とのつながりが難しいことなどがある。一方で「80」の高齢の親は、自分に何かあった時にどうなるのかという不安に加え、家庭の状況を他者に知られたくないと感じることも多い。総じて世帯単位で、表面化しづらく孤立しやすい課題である。

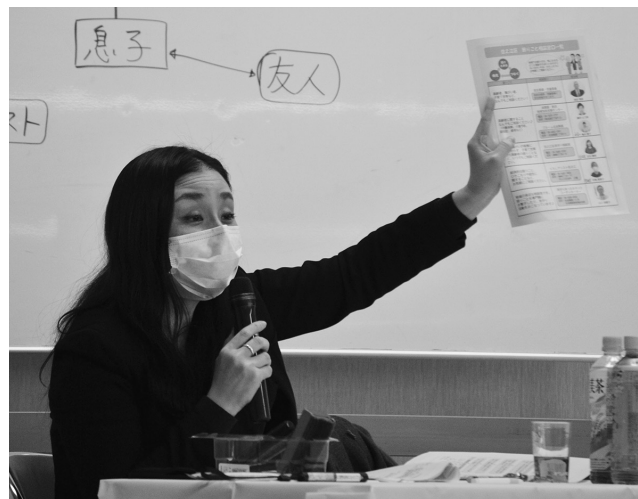
綾部先生は、一人ひとりができることとして「それぞれが日頃から（予備軍の世帯も含めて）意識して生活してみる」「さまざまな相談窓口があるこ

とを知る」「地域のみ・専門機関のみ・行政のみで抱え込まない」などのポイントを示した。

もしこの世帯を知っていたら…

午後からは、実際に火災があった地域の町会長が、その一部始終を報告。近くで地蔵盆の準備をしていた中で火災に気づき、近隣世帯の避難誘導、当該世帯の母の無事の確認、帰宅できなくなった世帯の会館での寝泊まりなど、地域ぐるみで対応した様を生々しく語った。「もしこの世帯を以前から知っていたらどんな関わりができていただろうか」…この地域の相談窓口を担当する人たちが登壇し、それぞれの役割と想定される支援方法を語った。

地域包括支援センターと総合相談窓口（ブランチャ）は「高齢者の総合相談窓口」として、お母さんへの関わりから、世帯全体の課題を把握し、



当日配付された顔写真入りの相談窓口チラシを示す綾部先生

他の機関とも連携できれば」。見守り相談室は「世代を問わずに支援できる。まずはお母さん

から関わり、何度も地道に訪問して、息子さんも含めて信頼関係をつくりたい」。くらしアシスト住之江（生活困窮者自立相談支援窓口）は「就労支援や家計改善などの支援メニューを通して、本人との関係づくりに向け、アプローチすることもできる」とそれぞれの強みを話した。

顔と名前が見える相談窓口

綾部先生は「相談する時、ここで間違えていけないかな」と迷うかもしれないけれど、相談窓

口同士がつながっていて、最初の相談窓口を間違えても適切な機関にご案内しますから大丈夫ですよ」と、少しの気づきから勇気を出して相談することを後押しした。

地域の立場から登壇した池田秀郎民生委員長は「今回初めての試みだったが、どこかに相談すればつながることを確認できた。やはり信頼関係が大事。参加してくれたみなさんのアンケートの意見も参考にしたい」と語った。今回を出発点として、同地域では今後も継続的にこうした場を設けることを考えている。



※市社協HPにも写真等を追加したレポートを掲載



加賀屋地区民生委員児童委員協議会 委員長の池田秀郎さん（左）をはじめ、登壇者のみなさん

ごどもたちの思いが、 食事サービスの再開を後押し

地域・学校・区社協が
つながる

卒業式を翌日に控えた3月18日、西成区の南津守小学校6年生の教室で、お弁当と一緒にプレゼントを受け取る食事サービス

ス利用者の方の姿が上映された。プレゼントの中身は、ごどもたちが用意した手紙と折り紙だ。

南津守小学校では、例年6年生が地域福祉活動の場へ出向いて活動者や利用者にインタ

ビューをおこない発表する、総合的な学習時間の活動を実施していた。しかし、

令和2年度はコロナ禍で予定していた活動が叶わず、代わりに地域福祉活動で使ってもらえるようなプレゼントを作ることになったという。食事サービスへの手紙の他に、ふれあい喫茶にはコースター、いきいき元気が考えた体操やゲームを実践した動画を

用意した。

一方で、区内の地域福祉活動はまだ再開していないところも多く、区社協でも再開に向けて何かア

プローチできないかと考えていたところであった。

学校から「地域福祉活動に応じたプレゼントを作ろうと考えている」と聞いた区社協・地域支援担当の由浅悠さんは、このことを区社協内で共有。「先生やごどもたちの思いが、地域の力になるはず」、すぐに地域に出向いた。

地域では、感染拡大状況をみながら、会食型の食事サービスを3月末まで休止しようと考えていたところだった。しかし、由浅さんからこの話を聞き、配食での食事サービスをおこなうことへ、速やかに話が進んでいった。

**直接会えなくても、
気持ちは届く**

学校での上映に向けて配食の日に区社協職員が手分けして同行し、その様子をビデオ撮影した。

地域の会館でお弁当を袋詰めする様子やテキパキと動くボランティアの様子、一軒一軒訪問して声をかけながら手渡しする様子を初めて見たごどもたち

は、だんだん前のめりになる。

久しぶりにボランティアさんに会い、お弁当とともにプレゼントを受け取った食事サービス利用者の方々には、みな笑顔。ボランティアのモチベーションもあがったという。

「あ、知ってるおばあちゃんや！」とひとりの男子児童が声をあげる。お向かいに住む、今年百歳を迎える方だそうだ。

プレゼントを受け取った方の「元気をいただきました」
「みなさんががんばってね。わたしも負けへんようにがんばります」
「あなたたちは地域の宝物！」と

の声が、今度はごどもたちに届けられた。

地域の一員として

ビデオ上映後、先生は「あなたたちは地域の一員です」と、翌日に小学校を卒業することもたちにエールを込めて話した。由浅さんも「みなさんの力で、配食を実施することができまし



た。直接じゃなくても、地域のためにできることがあると、気づいてくれたらうれしいです。卒業しても地域とつながっていただく」と言葉をかけた。

南津守小学校は福祉教育の取り組みを、これからも「地域と一緒にやっていきたい」と考えている。西成区社協も地域と学校と手を取り合って、一緒に進めていく。

スマホを勉強し、ボランテニア講師になろう！

コロナ禍で
関心高まるスマホ活用

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域でリアルに顔を合わせる機会が少なくなっている。特に、高齢者やITが苦手な人は「オンラインで話してみたいが、どうすればいいのかわからないし、それを教えてくれる人がいない」とあきらめているかもしれない。

そこで、スマホを使える人、スマホでつながる人を増やすために、中央区桃谷連合自治会では2月より約1カ月に渡り、全10回の講座「スマホを勉強し、ボランテニア講師になろう！」を桃谷会館で開催した。スマホの操作を習って終わりではなく、自ら伝え広げて、住民同士のつながりをつくっていかうという取組みである。

情報の受け手にも
知識が必要

この講座を発案したのは、同連合自治会会長の原田壽幸さんだ。昨年、区社協が開催した「つながりづくりのためのWE

B勉強会」に地域で参加したことがきっかけとなった。

原田さんは、「いろんな情報の発信がされていても、受け方がわからなければ情報は伝わらない。操作を教える人が必要」と感じ、住民同士で情報を共有し、地域で助け合っていくために、スマホの使い方教えるボランテニアをつくっていかうと考えた。

覚えながら、
伝えていく

講座は、週2回。1回は講師の指導を受ける「講座日」、2回目は講座後に習ったところで疑問に感じた点を講師に質問する「復習日」として、知識の定着を図った。

3月26日、最終日。講師に不明点を質問する時間には、みな積極的に手を挙げていた。その後、各自で自己チェックシートを記入。

このシートは講座で学んだ点を15項目にまとめたもので、理解できたものには「○」そうでないものには「×」をつけるようになっていた。

後半では、グループワークとして、初めてスマホ操作を教え合った。グループの中で、自己チェックシートに「○」をつけた人が、そう

でない人に教えていく。教えることに戸惑いつつも、ともに学んでいこうという新たな関係がみとれた。

ある男性の受講者は、「まだまだ十分ではないが、繰り返ししたり、教えたりすることでしっかり覚えられると思う。こういう使い方ができるといい発見もあった。学んだことを生かして行動範囲を広げていければ」と講座をふりかえった。

地域活動に
役立てたい

受講期間中に、オンライン会議も経験したという原田さん。「オンラインでつながれば、一人暮らしの高齢者の様子もわかるし、ふれあい喫茶の紹介もできる。今は学んでいるだけでなく、が、ステップアップして実際の地域活動に役立てたい」と意気込みを話した。

区社協・地域支援担当の中原沙江さんは、講座をふりかえり、今後についてこう話した。「定員14名を超える応募があ



わからないところを教え合い、ともに学ぶ

り、これまで町会活動に参加の機会がなかった人も参加されている。そうした方々が、スマホを教えてくれるボランテニアとして地域デビューにつながればと願っている。今後、フォローアップ講座として、教え合う機会を持ち続け、つながった受講者同士が交流を深めるとともに、並行して、ボランテニア講師デビューの場所をつくっていききたい。

第2期 推進計画から考える私たちの活動

3年後の姿は？

いま何ができる？

3回目の緊急事態宣言：

4月25日、大阪府下で緊急事態宣言が発出されました。「活

動再開の見通しが立たない」「万全の感染対策で準備してきたいイベントもやむなく中止」「オンライン会議も慣れたけ

ど、何でも置き換えられるわけじゃない」：読者の皆さんもさまざまな思いが渦巻いていることと思います。

新型コロナウイルス感染症の流行から一年以上が経過しまし

たが、コロナ禍での地域福祉活動のあり方は、いまだ手探り状態です。そんな中でも、今号の住之江区・都島区・西成区・中央区の取組みのように「こんな状況でも」「今だからこそ」という思いによる、希望を感じる実践は確かに存在しています。

今年3月に策定した「第2期

大阪市地域福祉活動推進計画」について、前号で全体像を伝えましたが、第3章では、コロナ禍の現実を踏まえ、当面3年間を見据えた地域福祉活動の基本目標を発信しています。

先が見えない状況下で、これからととも切り拓いていくために、ぜひ自身の活動を重ねながら読んでみてください。

3つの目標×4項目を見てみよう

地域福祉活動の3つの基本目標は「場づくり・つながりづく

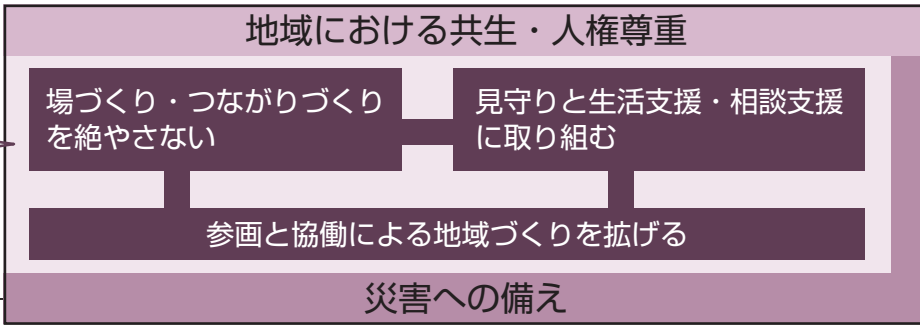
りを絶やさない」「見守りと生活支援・相談支援に取り組む」「参画と協働による地域づくりを拡げる」としており、それぞれに4つの小項目があります。また、常に確認し続けたい2つの視点として「地域における共生・人権尊重」と「災害への備え」をあげています。

この計画における「地域福祉活動」は、身近な地域での福祉活動、ボランティア・市民活動、社会福祉法人・企業・商店・学校による活動など幅広く捉えています。いずれも自発性・主体性が基本であり、活動ごとに背景や目的は異なります。その前提のもとで、実践上のポイントを改めて確認できるように、共通する目標を提案しています。

ここに示す項目や計画冊子の説明を読みながら、「これは前から意識しているよ」「ここはしっかりと取り入れよう」と気づきや考えを巡らせ、話し合うきっかけにしてみてください。市社協としても、これらの活動の推進に向けた取組みをさまざまな形で実施していきます。

第3章の自身を知りたい！

計画全体を読みみたい！



災害への備え

地域における共生・人権尊重

〈地域福祉活動に関わる方へ〉計画(第3章)を見ながら考えてみよう

Q. これまでの活動で大切にしてきたことは？

Q. これからやってみたいことは？

Q. 3年後にはどんな姿をめざしたい？

地域福祉活動の3つの基本目標

(1) 場づくり・つながりづくりを絶やさない

①可能な形で場づくり・つながりづくりを続ける
(始めてみる)



②オンラインツールの活用など、つながる、届ける
ための方法・選択肢を広げる



③生活上の課題を抱える人のつながりづくりや参加
をサポートする



④つながりづくりの延長で見守り・気にかけて合い、
孤立を防ぐ



(2) 見守りと生活支援・相談支援に 取り組む

①さまざまな担い手が連携して、気づく、つなく、
見守る



②一人の暮らしを支えるために住民と専門職が連携
する



③困りごとや不安の解消につながる選択肢を広げる



④支援体制が十分でない困りごとに目を向けて
解決をめざした動きをつくる



(3) 参画と協働による地域づくりを拡げる

①活動を楽しみながら続ける

②新たな人・団体が参画しや
すい入口・接点をつくる

③活動を担う人同士で話し
合う場をつくり続ける

④相互理解と協働に向けて
団体の枠を超えてつながる



風をよむ

多様な意見が尊重され、 反映される社会に

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 講師
鵜浦直子

75年前の1946年4月10日は、戦後初の衆議院議員選挙の投票日であり、女性が参政権を持つようになってから最初の選挙であった。当時の女性候補者は全候補者の2・9%で、全体の8・4%にあたる39人の女性議員が誕生した。現在、日本の衆議院における女性議員の割合は9・9%となっている。75年前と比べるとその割合に大きな変化は見られない。

一方、2021年3月5日、列国議会同盟 (Inter-Parliamentary Union, IPU) は、2020年、世界の国会議員で女性の占める割合が平均25・5%であったと報告した。1995年は11・3%で、2倍以上の結果となったが、列国議会同盟はこのペースでいくと男女同数に到達するには50年近くかかるとした。日本は、この世界の割合の約3分の1で、日本における女性の政治参加が進

み、男女同数になるまでにはかなり強力な取組みが求められるだろう。

女性の政治参加が進まない背景によく挙げられるのが、育児などの両立である。しかしこの問題は誰もが直面する課題であり、女性だけの問題ではないはずである。また、政治家は24時間365日休みなく活動する状況になっていると思われるが、そうなるのと、政治に参画できる人というのがかなり限られてしまう。

約2年前に障害のある方が国会議員となり、国会のバリエーションがなされた。多様な人が自分たちの国や社会のあり方を考えていく場に参画できる兆しが見えつつあるが、さらなる努力が必要である。女性の政治参加の促進を起点として、様々な立場にある人たちが声を発し、それが反映される政治のあり方、意見が尊重され社会のあり方を模索していくことが求められる。

支えあう

住みよい社会 地域から

民生委員・児童委員の日(5月12日)

民生委員・児童委員は、身近な相談相手として、地域の方々の生活に寄り添い、笑顔、安全安心のために、それぞれの地域において関係機関とも連携し、見守り活動など、さまざまな取り組みをおこなっています。

全国民生委員児童委員連合会は、5月12日から18日を「民生委員・児童委員の日活動強化週間」とし、全国23万人の民生委員・児童委員が一斉にさまざま

なPR活動等を展開することにより、地域住民や関係団体などに、その活動や存在について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につなげていくことをめざしています。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、市内各区民生委員児童委員協議会においても、ポスター掲示等の啓発活動をおこなっています。



昨年8月、マスク・啓発チラシを活用した訪問等による見守り活動の様子(浪速区日本橋地域)

❖ 「民生委員・児童委員の日」について ❖

全国民生委員児童委員協議会(当時)は、昭和52年(1977年)に、毎年5月12日を「民生委員・児童委員の日」とすることを決めました。これは、大正6年(1917年)5月12日に岡山県済世顧問設置規程が交付されたことに由来するものです。

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

1人1人の保険 住まいの保険 車の保険

www.ms-ins.com